

第3回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時：平成25年3月13日（水） 午後2時40分

場所：男鹿市役所 3階第一会議室

出席委員（19人）

1号委員 大 水 直 樹

2号委員 高 橋 邦 武

4号委員 糸 井 博 佐々木 崇 成 鎌 田 栄 光

畠 山 千 萬 城 高 橋 徹 菅 原 喬

5号委員 大 高 誠 悦 石 垣 禮 之 輔 齊 藤 登

飯 澤 信 夫 高 桑 繁 佐 藤 清

大 淵 俊 三 仲 村 盛 吉

6号委員 木 村 一 裕

7号委員 伊 藤 正 孝 伊 藤 岩 男

代理出席（2人） （委 員 名） （代 理 者）

4号委員 中 村 和 訓 平 川 誠一郎

4号委員 佐 々 木 明 鎌 田 一 彦

欠席委員（3人）

3号委員 佐 藤 純 一

4号委員 山 本 次 夫

5号委員 佐 々 木 一 義

5号委員 佐 藤 利 規

出席事務局職員

① 総務企画部長 山本 春司

② 総務企画課長 原田 良作

③ 総務企画課副主幹 吉 田 悟

第3回男鹿市地域公共交通活性化協議会総会

日 時：平成25年3月13日 午後2時40分

場 所：男鹿市役所 3階 第一会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 議事録署名委員の選任について

(2) 事業経過報告について

資料1

(3) 平成25年度 収支予算について

資料2

(4) 今後のスケジュールについて

資料3

3. 報告事項

(1) 平成25年度 男鹿市単独運行バスの契約内容について

資料4

(2) 東松島市公共交通視察研修の報告について

資料5

4. 閉 会

午後 2 時 41 分開会

○事務局 原田総務企画課長

まだお見えになっておられない方がありますが定刻となりましたのでただいまから、第 3 回男鹿市地域公共交通活性化協議会 総会を開催いたします。

このたび、委員の交代がありましたのでご紹介させていただきます。

若美地区町内会長連絡協議会会長の佐藤 清様です。

○佐藤委員

佐藤です。はじめてですので何卒よろしくお願いいたします。

○総務企画課長

よろしくお願いいたします。

本日の総会は、お手元の次第により進めさせていただきます。議事進行につきましては、会議規則により会長が努めることとなっておりますので、木村会長よりお願いいたします。

○木村会長

本日はご多忙中にもかかわらずご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、事業経過報告について、平成 25 年度収支予算について、今後のスケジュールなどについて、ご協議をいただくこととしております。皆様の活発なご発言を期待いたします。はじめに、次第 2 の議事録署名委員の選任についてお諮りいたします。協議会規約第 20 条第 3 項により 2 名の議事録署名委員を選任することとなっております。選任方法について、いかがいたしましょうか。

～事務局一任の声あり～

○事務局 原田総務企画課長

それでは、事務局からご提案申し上げます。椿地区六部落会長の斎藤委員と男鹿市産業建設部建設課長の伊藤委員とを推薦いたしたいと思います。

○木村会長

事務局より斎藤委員と伊藤委員を推薦する声がありましたので、ここでお諮りいたします。両名を議事録署名委員とすることにご異議ございませんか。

～異議なしの声あり～

異議がないようですので、議事録署名委員は、斎藤委員と伊藤委員に決定いたしました。よろしくお願いいたします。

それでは本日の議事に入ります。はじめに、(1)の事業経過報告について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 吉田

それでは事業経過報告についてご説明いたします。1 ページ資料 1 をお願いいたします。

こちらは平成 24 年度の男鹿市地域公共交通活性化協議会第 2 回総会以降の事業経過の表でございます。①の市の議会の 12 月定例会でございますが、こちらは新年度の路線バス委託

運行にかかる債務負担行為の議決をいただいております。

②の幹事会でございますが、本日開催されております総会の会議案の協議をしていただいております。平成 25 年 2 月 6 日でございます。③が協議会総会でございまして、事業経過報告、当初予算等を協議いただいております。

以上で、事業経過報告につきましてご説明いたしました。よろしくお願いします。

○木村会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、質問や意見はございませんでしょうか。

それでは、(1) 事業経過報告については、ただいまの案で決定してよいかお諮りいたします。

ご異議ございませんか。

～異議なしの声あり～

ご異議がないようですので、事業経過報告については、この案で決定いたしました。

次に、(2) の平成 25 年度収支予算について、事務局から説明願います。

○事務局 吉田

平成 25 年度の収支予算につきましてご説明申し上げます。2 ページ資料 2 をお願いいたします。こちらは平成 25 年度の男鹿市地域公共交通活性化協議会の収支予算案でございます。まず表の上の部分収入の部でございます。1 款 1 項 1 目男鹿市負担金は 500,000 円でございます。2 款 1 項 1 目国庫補助金は 1,000 円です。3 款の繰越金は 154,000 円を予算措置してございます。4 款は諸収入でございます。こちら 1,000 円でございます。収入予算額総額 656,000 円でございます。

支出の部でございます。運営費 1 款 1 項 1 目、会議費は 519,000 円を措置するものでございます。内訳といたしましては、報償費 390,000 円、旅費 103,000 円、需用費 26,000 円でございます。報償費は協議会の総会および幹事会の報償費でございます。旅費はそれに伴う費用弁償でございます。需用費につきましては、会議の資料の印刷費等でございます。2 款は事務費でございます。1 目事務費は 135,000 円を措置しております。内訳といたしましては、需用費は 122,000 円、役務費が 13,000 円となっております。こちらの需用費につきましては、広告広報料を予定してございます。役務費につきましては会議等の案内の切手等の代金ということで 13,000 円でございます。

2 款 1 項 1 目事業費及び 3 款 1 項 1 目予備費はそれぞれ 1,000 円であり、(存置)

支出総額は 656,000 円でございます。よろしくお願いいたします。

○木村会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、質問や意見はございませんでしょうか。

○大水委員

平成 25 年度の予算書の収入の部、国庫補助金の 1,000 円とありますが、こちらの内容を教えてください。

○事務局 吉田

平成 25 年度は連携計画の見直しが予定されておりますが、その策定に係る費用が補助の対

象となるか否かの確認はできておらないため、今後の協議で補助の対象となった場合のために存置項目として予算措置したものです。

○大水委員

わかりました。

○木村会長

存置とはどのような字を書きますか。

○事務局 吉田

存在の存に置くという字です。

○木村会長

わかりました。

○木村会長

他に何かご質問ございませんか。ないようですので、平成 25 年度収支予算については、ただいまの案で決定してよいとお諮りいたします。ご異議ございませんか。

～異議なしの声あり～

○木村会長

ご異議がないようですので、平成 25 年度収支予算については、この案で決定いたしました。それでは議事の(3)今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

○事務局 吉田)

それでは今後のスケジュールにつきましてご説明いたします。資料の 3 をお願いいたします。こちら来年度の 1 年間の年間スケジュールを記載したものでございます。4 月から市の単独運行バスの 25 年度運行が開始をいたします。下旬には市内バス路線の乗降調査を行います。5 月には男鹿市公共交通総合連携計画についての方向性を庁内検討会にて検討し、中旬に幹事会、下旬には総会を行う予定としてございます。

また、8 月には男鹿市公共交通総合連携計画について中間報告と進捗の概要を庁内検討会にて報告し、内容の検討を予定しております。同じ内容につきまして、中旬に幹事会、下旬には総会を行う予定としてございます。

11 月の庁内検討会・幹事会・総会には男鹿市公共交通総合連携計画の素案を提案させていただきたいと考えております。1 月の中旬には平成 26 年度事業者の決定をさせていただき、そして幹事会・総会で経過報告・そして次年度予算等を決定していただくということで平成 25 年度を予定しているものでございます。よろしくお願いいたします。

○木村会長

ただいま、事務局から今後のスケジュールについて説明がありましたが、質問や意見はございませんでしょうか。

○高橋委員

男鹿市公共交通総合連携計画は平成 20 年度に策定されておりますが、その進捗度はどのようになっているかお教え願います。また、計画では短期と中長期に分けて進めることとし

ており、交通空白地帯への導入やスクールバスの活用など公共交通としては先導的な部分もあるかと思いますが、そちらはいかがでしょうか。

○事務局 吉田

連携計画の進捗についてであります。この計画は民間事業者が路線を廃止するため、それを継続して運行するため廃止代替という考え方で策定されております。現在まで計画に従って進捗をしているところであります。平成 22 年度から市単独運行バスとして運行しており、初年度 3 路線、昨年度は 7 路線、今年度は 6 路線であります。乗車人数の実績がでているのは平成 23 年度までですが、乗車数は少し増加している状態です。

○事務局 原田総務企画課長

私の方からは中長期的課題についてであります。連携計画の中長期計画に位置付けられている公共交通空白地帯への公共交通の導入やスクールバスの活用につきましては残念ながら実現はしておりません。これらは今後の計画見直しの課題点と受け止めております。

○事務局 吉田

さきほどの乗車実績についてであります。平成 22 年度運行の男鹿中線、五里合線、潟西北部線の 3 路線で 19,731 人で平成 23 年度は 20,823 人です。1,092 人増加しております。

○木村委員

他に何かご質問はございませんか。ないようですので、今後のスケジュールについて本案のとおり決定してよいとお諮りいたします。ご異議ございませんか。

～異議なしの声あり～

ご異議がないようですので、今後のスケジュールについては本案のとおり決定いたしました。引き続き、次第 3 の報告事項に入らせていただきますが、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 吉田

次第の 4 の報告事項についてご説明いたします。(1)平成 25 年度男鹿市単独運行バスの契約内容について(2)東松島市公共交通視察研修の報告についてを一括してご説明いたします。

恐れ入ります座ってご説明いたします。

4 ページ資料 4 をお願いいたします。こちらは平成 25 年度の男鹿市単独運行バスの契約内容でございます。

男鹿中線は浜間口下丁から羽立駅前までの運行区間で、こちらは秋田観光バス株式会社が 315 万円で契約してございます。契約月日は全路線すべて 1 月 29 日でございます。

五里合線は中石から脇本駅前までの路線で秋田中央トランスポート株式会社であります。契約額が 1,470 万円でございます。

潟西北部線は下五明光から若美総合支所前までの路線でございます。こちらは秋田観光バ

ス株式会社で契約額が 861 万円でございます。

入道崎線は入道崎から湯本駐在所前までの路線でございます。こちらは株式会社船川タクシーで契約額が 642 万 6 千円でございます。

戸賀加茂線は、加茂から湯本駐在所前までの路線でございます。こちらは、秋田中央トランスポート株式会社で契約額が 1029 万円でございます。

安全寺線は、安全寺上丁から北浦市民センター前までの路線でございます。こちらは秋田観光バス株式会社で契約額が 735 万円でございます。

次の 5 ページには平成 25 年度運行路線図を添付しております。

以上で男鹿市単独運行バスの契約内容につきましての説明を終了いたします。

続きまして、東松島市公共交通視察研修の報告についてご説明いたします。

6 ページ資料 5 をお願いいたします。

こちらは去る平成 24 年 11 月 12 日 13:30 から 15:30、宮城県東松島市 商工会事務所において東松島市で現在運行している予約型乗合タクシーにつきまして、視察研修をしたものであります。

今回の視察研修は議会の会派より予約型乗合タクシーの提案がありまして、その実態を研究する目的で視察したものであります。

まず資料の左側、東松島市であります。仙台市から北東に 30 km の距離にあり、仙台平野に位置する比較的温暖で降雪の少ない地域であります。平成 17 年 4 月 1 日旧矢本町と旧鳴瀬町が合併して市制施行しております。面積は 101.86 km²、可住地面積は 69.70 km²であり総面積に対しまして、68.4%であります。

市内中央部を通る JR 仙石線は市民の移動手段の要であり、駅は 8 駅配置されております。一方、右側の男鹿市は県都秋田市までは 35～40 km の距離にあり、日本海に突き出た男鹿半島の大部分を占めており、西部は山岳地形、その周囲は海岸段丘となっております。面積は 240.80 km²、可住地面積は 100.14 km²であり総面積に対しては、41.6%であり、起伏に富んだ地形ということがいえます。

JR 男鹿線は沿岸部に位置し、駅は 4 駅配置されております。

次のページをお願いします。

こちらの表も比較できるようになっております。まず、表の左側、予約型乗合タクシーを実施している東松島市であります。人口規模は平成 24 年 4 月 1 日現在 40,550 人であり、男鹿市では 31,956 人であります。

その下の欄の運行面積は東松島市 101.86 km²に対し、男鹿市では 240.80 km²、平成 23 年度の路線形態は東松島市 2 エリア午前 8 便、午後 8 便、運行時間は 8:15～16:45 で 30 分に 1 便、全線を 6 台の車両で運行しております。

一方、男鹿市は市単独運行路線が 6 路線 7 系統 63 便、秋田中央交通 5 路線 7 系統 57 便、秋北バス 1 路線 2 系統 19 便となっております。

その下の欄の乗車実績であります。東松島市ではこの予約型乗合タクシーを利用するに

は、あらかじめ乗車登録が必要であり、利用料金は現金で支払うものでなく、専用のチケットで支払うことになっています。

その登録をした人数が5,208人で延べ利用者数は10ヶ月実績で18,631人であり、12ヶ月に換算しますと22,357人であります。これは東日本大震災のため乗降数のデータがH23.4～5月までの分がなかったため、換算したものであります。

同じく右側の男鹿市であります。市単独運行路線は38,754人うち定期券利用者は5,168人、秋田中央交通路線は109,772人うち定期券利用者は40,686人、秋北バスは4,869人うち定期券利用者は893人であり、合計153,395人うち定期券利用者は46,747人であります。その下の欄の平成23年度運行費用であります。東松島市では運行費用は3,532万9千円、システム保守63万4千円、チケット等で70万9千円、合計が3,667万2千円です。また収入内訳としては、料金収入567万8千円、国庫補助3,099万4千円、合計で3,667万2千円となっております。国庫補助金は震災復興補助金があてられております。

同じく男鹿市では経費として市単独路線、秋田中央交通、秋北バスの合計は1億8,397万6千円であり、収入内訳の合計は料金収入が5,578万8千円、業者負担が2,277万5千円、県補助金753万6千円、市補助金9,787万7千円であります。

その下の欄は経費を比較したものであります。まず、東松島市では年間輸送人員が2万2357人であり、年間事業経費は3,667万2千円でありますので、一人当たりの輸送単価は1,640円となります。一方、男鹿市では年間輸送人員が15万3,395人であり、年間事業経費は1億8,397万6千円でありますので、一人当たりの輸送単価は1,199円となり、東松島市と同じ程度の輸送方式、輸送単価の場合、年間事業費が2億5,156万8千円となります。

次にその下の欄は事業に必要とされる車両の台数であります。東松島市の場合、移動需要に対しまして対応する車両は6台で現在運営されております。男鹿市で同じ程度の輸送方式、輸送単価の場合、必要な車両の台数が30台となります。

その下の欄にはそれぞれの市のメリットとデメリットをまとめて記載してあります。まず、東松島市の予約型乗合タクシーのメリットのひとつには、玄関先から乗降でき、降りたい所で降りることができるという点です。もうひとつは、高齢者の外出に対する支援ができるという点であります。男鹿市で運行している路線バスのメリットは、到着する時間が確実であるという点、また、一度に多くの利用客を輸送できる点が挙げられます。

また、予約型タクシーのデメリットとしては、1点目乗車には電話予約が必要である点、2点目予め登録した上で、チケットにて精算しなくてはならない点、3点目はシステム関係経費が新たな負担となるという点、4点目としましては、高齢者に利用が偏るという点であります。これは東松島市の担当者のコメントでありました。男鹿市のデメリットであります。1点目としては、バス停留所まで移動が必要であること。2点目は時間帯で利用が偏るという点が挙げられます。

両市ともスクールバスは教育委員会にて別対応しております。

以上、報告事項についての説明を終わります。

○木村会長

ただいま、事務局から報告がありましたが、何かご質問やご意見はございませんでしょうか。私からの質問ですが、東松島市のデマンド事業を視察されたようですが、男鹿市として参考となった点はあるでしょうか。

○事務局 原田総務企画課長

このたび、東松島市公共交通の予約式いわゆるデマンド方式の乗合タクシーを視察してまいりました。現在市内でもデマンド交通は実施していますが、定時定路で運行した上での予約運行ということなので、どちらかというと狭い意味での予約運行であります。

東松島市のように戸口から戸口の移動ができるという方式では高齢者にとって非常にありがたい交通手段ということがいえますが、一方では時間の確約ができないため通勤通学に対応できないと考えております。また、予約に対しての市民の抵抗感、事前のチケット購入などの課題があるため、本市への全面導入は困難であると考えております。

また、平成 25 年度は男鹿市公共交通総合連携計画策定という大きな行事がございまして、検討する機会が増えると思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

○木村会長

他になにかご質問はございませんでしょうか。ないようですので、以上を持ちまして、本日の議事日程を終了いたします。ありがとうございました。

午後 3 時 14 分閉会

会議の次第を記載し、これを相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成 25 年 3 月 29 日

会 長 木村 一裕

委 員 伊藤 岩男

委 員 斎藤 登